

## 「不況下における提案営業」



昨年秋から米国発の経済不況が襲来し、日本経済も大打撃を受けており、当社も業績の下降傾向が続いております。当社の振り返りとして2001年から03年にかけて、バブル崩壊後の金融機関の不良債権処理が急がれていた不況の折に苦しめられたのですが、あの時は、オフィスの解約や組織の見直しなどで対処しましたが、02年は赤字に陥りました。しかし各社員の努力で03年は、黒字に転換し、その後は少しずつですが回復してきました。そして、ここ数年引き締めムードで経営してきましたが、今回の不況は、かつてないほどの全世界、全産業に影響を及ぼす不況で、また新たな考えで乗り切っていくことが求められております。

そこで不況が我々に変化を求め、それ以降は、以前の環境とは全く異なってしまうことは、バブル不況の時も同じであり、この度の不況はさらに変化を求めることは、当然であり、それにどう対処するかがテーマであります。このことを営業活動の変化で見ると、今の世の中は、どの業界も同じだと思いますが、提案営業なくしては、成り立たない。しかもその提案は、(1)顧客の売りに貢献すること、(2)顧客のコストダウンに貢献すること。に絞られるのではないかと考えられます。

当社は、OA機器販売、ITサービスを主力としておりますが、箱物と言われたハード、ソフトを売ってはいけず、利益が出ない状態です。利益を出すには、提案営業をすることによって、付加価値を出すことが不可欠になります。そこで提案営業をするには、顧客の業務の流れをお聴きし、そのワークフローのどの部分にITを活用することによって業務改善、効率化を図ることができるかを突き止めます。そのために顧客の顧客が何を欲しているのかを探ることがポイントとなります。

この仕組みの落とし込みを当社内で検討して「S&S」(サポート、サービス、信頼)というスローガンを作ってスタートしました。その結果ITを中心としたネットワーク環境の整備をはじめ、顧客のニーズの幅が広がり、多方面からのニーズを獲得することができました。そしてもう一つは、それを支える当社内のバックアップ体制の構築が必要となってきました。IT技術を持ったサポート部隊を作り上げ、社員にIT技術の資格を取らせて進めてまいりました。それで販売、サービス、技術支援の3つの組織ができあがりました。また、当社は顧客の業種が幅広いので対応可能な業界を絞ることも今後の課題です。当社は建設業界が強いのですが、今は不況業界なので困りものです。そうして販売から最終メンテナンスまでの一環したソリューション体制を作ることが目的です。ワンストップソリューションです。

いくら不況が続いても、顧客に本当のお役立ちの評価をいただけることを目指しつつ、生き延びていくことを信じてやるしかないと思っています。さらに社員を家族と思って心をかけて育てていくことが重要かと思っています。



株式会社ヤマイチテクノ  
取締役社長 山脇 雅則

### <かけだし経営コンサルタントのつぶやき>

診断士の資格でコンサルタントか。そうしよう。と早々に決定した次第。

そして、銀行の元上司の言葉。「新規の仕事始めるなら、せめて名刺くらい作っておかないとあかんぞ。」それで、はるかに年下で、知り合いのコンサルタントに、何という名称がいいかなと相談。「何でも一緒です。作ればいいのです。例えば、笠井経営コンサルタント総合研究所はどうですか。」しかし、駆け出しで、まして1人で、事務所は自宅、総合研究所は仰々しいな。では事務所にして。<笠井経営コンサルタント事務所>に決定。名刺を出す時、相手の目をまともに見られないような名刺を作成。

ただ、自己紹介でトラブル発生。笠井経営コンサルタント事務所の中で、'経営'や'事務所'を言い忘れるやら、遂には'経営コンサルタント'までもが抜ける始末。それはまずいと、20回くらい暗記、暗誦し、ようやく完全マスター。カサイケイエイコンサルタントジムショ。

私は、大学時代、研究者になるのが夢で、大学院へ進学が決まり、上京準備の時に実家が倒産。やむなく進学断念。そして、一度は就職を辞めた銀行へ、事情を話し、受け入れてもらう。銀行の業務に直結した経営分析、経営学関連なら勉強できるし、診断士の資格も取りやすい。退職後はそれを生かせれば、一挙両得だ。長い道のりを経て、ようやくたどり着いたスタートライン。今まで、退職挨拶状をたくさんもらいました。曰く、第二の人生を、ようやく訪れた余暇を、趣味を、晴耕雨読を。残された人生を・・・。

私はちがいます。学生時代に挫折した夢の一部を実現させる、新たなスタートと考えています。何か社会(経営)に役立てる仕事があったい。'健全で健康的'な遊びもしたい。幸い、喝を入れてくれる、生き方の手本になる、尊敬できる人がまわりにいるのは嬉しい限りです。私はがんばります。

面白くもない、他人のひとりごとにお付き合いいただきありがとうございます。もし、いつか、この紙面に登場することができれば、今取り組んでいる、商店街活性化、地域活性化問題を真面目に、アカデミックに、ユニークな視点から発表したいと思っています。

笠井経営コンサルタント事務所  
中小企業診断士 笠井 裕

### ～本田支部長が近畿経済産業局長より 表彰を受けられました～

15年間に亘りVEC理事・関西支部長としてベンチャーの育成や支援に尽力し多大の功績とベンチャー分野等の発展に寄与されたことに対し表彰がありました。

7月14日(火)の授賞式の様子を紙面を借りましてご紹介します。これからもさらにご活躍されることを期待いたします。

VEC一同



授賞式は近畿経済産業局で行われました。



## ハノイで「南京玉すだれ」披露

南京玉すだれ協会恒例の海外出演。今年は4月10日～14日ベトナムの首都ハノイの「日本さくら祭り in Vietnam 2009」に40名で参加した。

ベトナムにはホンダ、キャノンなど多くの企業が早くから進出し、その企業には多くのベトナムの若者が働いている。この祭りは、ベトナムの方にもっと日本を知って貰おう「日本ベトナム文化交流協会」が企画し、今年で3回目である。また、歴史的にみても遣唐使の阿倍仲麻呂が帰国途中難破し、しばらくベトナムに滞在していたこと、17世紀には朱印船がベトナムと交易をしたことなどの歴史的な交流があり、ベトナム人は日本に親しみを持っているようだ。

(世界遺産のハロン湾)

ハノイから東へ約180km。奇岩が織りなす景観は「海の桂林」といわれ、エメラルドグリーンの神秘的な世界。フランスワインを飲みながらクルージングを堪能した。空から舞い降りた竜が火の玉を噴出し、それが海面に落ちて岩に変わったと。そんな伝説が本当のようにも思える。

大小2000近い島々。石灰岩の台地が氷河期に沈み、海上に残った部分が海水や風雨に浸食されて出来たもの。まさに自然の生み出した芸術。

(市内散策)

ハノイ市内はバイク社会。2～4人乗りのバイクが所狭しと走り回っている風景にはビックリ。バイクはホンダ製がほとんど。でも道路横断はコツを掴めば安全のようだ。また、裏道に入れば天秤棒を担いだ行商人もいる。この国が本格的に車社会になれば交通安全は大丈夫かなと参加者全員が心配していた。

(さくら祭り)

日越両国20万人の手で創り上げる「日本さくら祭り イン ベトナム」。日本からよさこい踊り、花笠踊り、南京玉すだれ等ベトナムの人に分かりやすい民衆芸能が出演。大変な好評。大きなスタジアムに4～5万人の観衆がいたようだ。一時、治安当局の要求で公演中断した。それくらい、日本の伝統芸に対して関心を持ってくれた。また、ベトナムでは、桜は咲かないので、冷蔵しながら日本から空輸したとか。



(ハロン湾にて)



(3万人を超える観衆の前で)

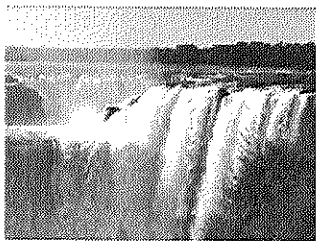
来年はハノイ建都1000年 ぜひとも参加して欲しいとの要望があり、参加の予定だ。日本ベトナムの友好のために。最後に、来年は上海万国博覧会にも40名で出演の予定であり、民間交流として南京玉すだれが定着した感がある。

フナガイ企画 代表 舟貝 政夫

## 「南米旅行記」

家内と一緒に南米ツアーに参加しました。行程は次の通りです。  
関空⇒ロス⇒リマ⇒プエノスアイレス (★) ⇒イグアスの滝 (★★)  
⇒プエノスアイレス⇒リマ (★) ⇒クスコ⇒ウルバンバ (★) ⇒オリヤンタイタンボ⇒アグアスカリエンテス⇒マチュピチュ⇒アグアスカリエンテス⇒オリヤンタイタンボ⇒ウルバンバ (★) ⇒オリヤンタイタンボ⇒クスコ (★) ⇒リマ⇒ナスカ (★) ⇒リマ (★) ⇒ロス (★)  
⇒関空と移動の非常に多い旅行でした。

(⇒; 航空機、二; 汽車、→; バスで、他にも観光地でバスに乗ります。クスコなどのように塗りつぶしたところが観光地、その他は通過点です。また、地名の後の★は泊地です) 行程表に書いたように結構移動の多い比較的忙しい旅でした。見所は沢山ありますが、人間が作ったものの代表として「マチュピチュ」と「ナスカの地上絵」、自然が作ったものの代表は文句なしに「イグアスの滝」でしょう。「イグアスの滝」の写真を二つ載せておきますが、カラーでないのが残念です。下の写真には虹が写っています。



右の写真は「マチュピチュ」です。マチュピチュは、標高2400位のところに15世紀の頃に作られたインカの都市です。人口は1000人以下だったと考えられ、作った目的は未だに諸説あるようですが、天体観測は盛んだったようです。

<続く>  
長井 俊彦



## 五島列島の夏

私は、長崎の西方に位置する「五島列島」で生まれ育ちました。まずは、五島列島の歴史について少々述べたいと思います。

長崎県西部、東シナ海に浮かぶ島嶼郡であり、北東から南西方向に並ぶ中通(なかどおり)島、若松(わかまつ)島、奈留(なる)島、福江(ふくえ)島の五つの幹島と約2000の属島からなっております。総延長約80キロメートル、面積637.78平方キロメートル、行政的には五島市、南松浦(みなみまつうら)郡新上五島(しんかみごとう)町を形成しています。古くは平戸(ひらど)島とともに値嘉郷(ちかのさと)とよばれ、遣唐使の寄港や倭寇の根拠地となるなど、対外関係上重要な位置を占め、その遺跡も多く残っています。現在では、北松浦郡に属する宇久島、小値賀島、野崎(のざき)島などを平戸諸島に加え、ほかの五つの幹島とその属島を五島列島とよぶことになっているそうです。ちなみに、人口7万6000人余り。よく「何人ぐらいいる島なの?」と質問を受けることが多いのですが、意外と多いのですよ。

ここからは、五島列島の夏の風物詩を。

私が生まれ育ったのは中通島の新上五島。五島列島の北に長く延びる位置です。皆さんが想像するよりも、冬は寒く、夏は涼しい気候です。夏といえば海!と思えば浮かべる方も多くとおもいますが、もちろん島です。海でのイベントは多数あります。まずは、「ペーロン」。ご存知ですか?「ペーロン」の由来は西暦紀元前300年のころの中国の戦国時代にあるといわれています。その当時数隻の中国船が長崎港を訪れた際、強風のため出航できなくなったので、海神を慰めて風波を鎮めるためにこの「ペーロン」競漕を港内で行いました。これを長崎の人達がとりいれて競漕を行うようになり、同地の年中行事の一つとなって今日に及んでいるそうです。私の地域ではお盆の初日に大会が行われます。そこはやっぱり田舎。島民が全員参加で行われます。私も小学校から高校、大学時代も地元に戻り、参加していました。また、夏といえば、お盆。大阪に来て友人達と話をしていると、おかしいと言われるのですが、私の地元ではお盆の時期は、夕方からお墓に向き、提灯に蝋燭をともし、暗くなるまでは親戚一同で賑わい、日が暮れてくると花火!どこの家系が一番最後まで残るのかを競うくらいお墓で過ごします。お盆最後の日には夜中に海に向き、灯籠流し。豪華な手作りの船に蝋燭をともし、先祖とお別れをします。月明かりのみで真っ暗な海がとても幻想的になりますよ。

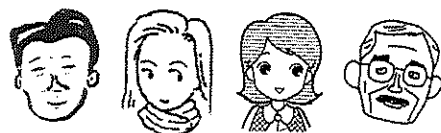
今回このような機会を与えていただき、まだまだ話足りない事ばかりです。また、改めて自分の故郷について調べたりと、これまでの生活を思い浮かべることによって、私自身、「五島列島出身」という事を誇りに思うことができました。

みなさん!五島列島に行かれる機会がありましたら、ぜひご一報を! きっとお役に立てるかと思います。

武石 寛美 (五島列島出身)

### ～VEC関西より～

- ◆衆議院もいよいよ解散。これからナガイ選挙運動が始まります。「どっちが政権をとっても変わらない」等と言わずに、じっくり話を聞いて、清き一票を。(本田)
- ♥期待していたほどハッキリ見ることが出来なかった日食でしたが、その瞬間が訪れた時、曇ってはいたのですが辺りがグレーの世界になり、不思議な感じでした。日食ハンターの気持ちが判るような気がしました。(藤本)
- ◆山脇社長様より顧客から本当にお役立ちの評価を受けることが企業存続の基本であるというメッセージを賜りました。バカンスのシーズンとなりましたので、舟貝様、長井様、武石様から国内外をご紹介いただきました。一度は訪ねて見たいものです。(澤村)
- ◆8月は例年どおりごさいません。  
9月9日(水) 株式会社 東海メディカルプロダクツ  
代表取締役 筒井 宣政 様



☎:06-6263-0366